

市の助言内容と申出者の意見

市の助言	申出者の意見
1 外観の計画について	
(1)	駅前広場との一体感を感じられるためには、駅前広場からの視線と駅前広場への視線との双方を確保することが重要です。建物内部の賑わいの表出や内外のつながりが感じられるような設えについて引き続き検討されるとともに、その様子が、建築物に接する通りからだけでなく、駅前広場からも視認できるよう、例えば2階以上に設けるなど、配置にも工夫されるよう期待します。また、建物内部からも駅前広場を見渡せるような設えができないか、併せて検討されることを期待します。 EV や階段等の位置はほぼ確定となり、変更は難しい状況ですが、例えば北西及び北東角のエントランス廻り等のデザイン、設えについて引き続き検討します。
(2)	中景の方針「札幌駅前通沿道建築物と連続した風格や賑わいが感じられる街並み形成」を達成するためには、将来的な街並みを見据えて周囲と調和し、風格や品格のある街並みの一端を担うことが求められます。駅前広場及び駅前通の、特に比較的新しい建築物がシンプルで落ち着いた外観であることも踏まえ、壁面と装飾部のバランスやそのデザインの在り方について、改めて検証されるよう努めてください。 駅前広場の顔づくりと駅前通り（にぎわい軸）への繋がりに留意した壁面と装飾部のバランスや建築外装と装飾部との一体化など、デザインの在り方について検討します。
(3)	低層部の設えについて、特に南東側は駐車場出入口が配置されているなど裏側感が生じやすいことから、例えば壁面に表情をつけたり、照明を効果的に活用するなど、壁の威圧感を薄めたり閉鎖的にならないよう丁寧に検討してください。 駐車場出入口のある南面や東面の1階壁面については、南面店舗ファサードと同様の高さで壁面デザインを切り替え、さらに壁沿いに植栽帯を配置することで、裏側感のない設えとします。 また、コーナー部壁面は、交差点からの視認性が高い重要な部分なので、アクセントウォールにするなど、建物にとっての顔づくりを検討します。
(4)	低層部のガラス面は、使い方によっては煩雑な印象となるため、その使い方を慎重に検討されるとともに、入居店舗部分についても統一的な運用がなされるよう、サイン、照明、内装計画等について、例えばデザインガイドラインを作成するなど、早い段階から一定のルール下で計画され、風格や品格を高める仕 入居テナントの内装工事検討段階に発行する内装設計指針書のなかに、デザインガイドラインを作成してサイン・照明・内装計画についての一定のルールを定め、街並みに配慮した運用が行われるよう検討します。 また、低層部の窓面に関しては、全面にシートを貼るようなサインは設置せず、ガラス面か

	組みの構築について、検討するよう努めてください。	ら距離をとって設置するなど街並みに対して質の高いサインとなるよう、今後検討していきます。
2 植栽計画について		
(1)	外構について、建物内部の雰囲気を感じさせる部分と隠す部分の使い分けや見せ方なども考慮しつつ、樹木の高さ、樹種、彩り等にも配慮し、四季折々で楽しめるよう検討してください。	地上部の植栽は落葉樹を主体とし花や紅葉により四季のうつろいを楽しむことのできる植栽計画とします。 エントランスや店舗前には6m程度の高木を配置し、将来的にも下枝を管理し建物内外の視認性を確保します。一方建物内部が見えない外壁前には2m程度の中木と低木による植え込みを配置し、外壁の見え方を緩和するような設えとします。
(2)	連続的なみどりに加え、例えば滞留スペースや座れるベンチを配置するなど、人とみどりと背景が一体となって感じられるよう、検討を深められることを期待します。	緑の周りに、ベンチや人の滞留できるスペースを設け、人と緑が調和した歩道沿いの空地となるよう配慮いたします。
3 ガレリア空間の演出について		
(1)	ガレリアの設置個所が旧五番館の中通に位置することに鑑みた記憶の継承を意識した工夫や、特に冬期の貴重なオープンスペースであることから、壁面の素材の選定などによる差し込む光の演出など、イベント等の開催時以外にも市民のための居心地のよい空間となるよう、音環境を含め総合的に検討するよう努めてください。	内装デザインにより中通りの記憶を継承し、差し込む光によりうみだされた陰影が時間とともに移ろう、居心地の良い空間を検討します。また、デザインや光環境のみならず、音環境にも配慮した総合的な空間づくりを検討します。
(2)	上層に向かって吹き抜けの開口が狭くなることから、上部の圧迫感を軽減するよう調整されるとともに、通行量が増える時間帯も考慮したイベントスペースの在り方を整理するよう努めてください。	内装デザインにより中通りの記憶を継承し、差し込む光によりうみだされた陰影が時間とともに移ろう、居心地の良い空間を検討します。また、デザインや光環境のみならず、音環境にも配慮した総合的な空間づくりを検討します。